

Zen-Noh Grain Elevators



Paul Muehlemann Photographer

全農の持つ世界最大の穀物庫が此処ルイジアナ ミシシピイの川添にあります。日本人の食生活と産業を維持する為の貴重な存在です。 菅井

Zen-Noh has the world largest Grain Elevators here in Louisiana along the Mississippi River. This facility has the most important function to support Japanese food supplies and promote corn based industries. Sugai

総領事館からのお知らせ

当館のホームページが新しくなりました。是非ご覧のうえ、ご意見、ご感想をお寄せください。

領事 小島 康蔵

The Consulate General has a new home page; please let us know your opinions and /or comments. Thank you.
Consul Kojima http://www.neworleans.us.emb-japan.go.jp/index_j.htm

New Orleans 日本人会 設立まで

今年は Japan Club が発足して 32 年になります。ついてはこの会の発足当時を知っている私に思い出を書くようにとのご要請がありました。私一人では記憶もあやふやなので平林さんに応援を御願いしました。また喜美子さん (Mrs. Turner) など当時をご存知の方に私のおぼろな記憶を確認していただきながら、当時の思い出を書いてみました。まずはじめに私の渡米当時から、そのころまでの New Orleans の様子をお話しいたしましょう。

私は 1957 年、Yale 大学の Fellow だった主人と結婚するために 14 日間かかって船で太平洋を横断して米国へやってきました。当時、日本ではテレビさえも珍しい時代でした。1958 年私は 1 年間住んだ New Haven を後に車で New Orleans へ向かいました。Tennessee あたりから次第にのどかな田園風景に変わり、南下するにつれて文化の香りが薄れていくような感じでした。Louisiana 州に入ると、Spanish Moss の垂れ下がる檜の木が異様に映りました。New Orleans へ着くとクーラーもない安宿に荷物を置いて French Quarter へでかけました。そこには日本人は勿論東洋人の姿は全くなく、黒人がうつろな眼で通り行く人を眺めているのが不気味にさえ感じられ、この土地にはとても長くは住めない、せいぜい 1 年だと思いました。それがどういう運命か、私は半生以上をこの街で過ごすことになりました。

当時、New Orleans 市には既に日本領事館があって、事務所は 400 Camp St.、International House の向かいでした。領事、副領事に加え喜美子さんと伊藤さんなど数人の職員が働いていました。其の後 1959 年、総領事館に昇格、事務所は International Trade Center に移転しました。まだ日本人の数はわずかで、一世の江成老夫妻とご子息家族、川崎夫妻、ジェロトロの駐在員飯村さん家族、大久保さん家族、それから主人の奉職した Tulane 大学医学部には私達の他に高階先生夫妻と二世の藤本先生がおられたと記憶します。人数が少ないだけに知り合った日本人同士のお付き合いは蜜でした。私

たちはよく St. Charles Ave. の領事公邸へ大木領事をお訪ねして四方山話をしたり、婦人たちが領事館のコックさんから握り寿司の作り方を教えて頂いたりしました。当時、食材は日本から直輸入だったかもしれません。兎に角、米国で日本食を食べることなどは贅沢の骨頂でした。最初の渡米先 New Haven は、New York に近かったので週末よく買い出しにいきましたが、New Orleans では日本食を入手するには那須さんが Gentilly の自宅で経営していた店がただ一つでした。その内、St. Charles Ave. にもう一軒日本食料品の店が開きました。これが平林、玉井両氏の起こした Oriental です。しかし、今のように日本食品が豊富ではありません。先ず日本の美味しいお米とお醤油お味噌が手に入るだけでも有り難いことでした。それに日本米は高価で特別な時にしか頂きませんでした。お豆腐やお大根が入手できるようになるのはもう少し後のことです。たまにすき焼きをする時は、椎茸はマッシュルームを代わりに用い、野菜は長ネギ、人参、セロリ、ピーマン、タマネギなどで取っておきのお醤油とお砂糖、みりんの代わりはワインという案配です。それでも日本の味と香りを充分楽しめました。

1958 年の大晦日でした。思いがけない事件が起きました。折から高階博士夫妻と一緒に Carrollton Ave. の私どものアパートでテレビを見ていました。すると突然臨時ニュースがはいりました。「今ミシシッピ河で日本の貨物船が石油を積んだバージと衝突して、炎上しています。」これは大変とすぐ近くに住んでいた船津副領事に電話しました。船津副領事も驚いてすぐ大木領事に連絡しました。ところが大晦日なので大木領事は French Quarter へでかけて留守とのこと、船津氏は大木領事の指示を仰がずにご自分の判断で至急警察へ連絡、間もなく Police Car がやってくるようになっていたが一人では心細いから一緒に来てほしいとのこと。間もなく船津副領事をのせたポリスカーがやってきました。高階先生と有村は船津氏と共に Police Car に同乗し現場へ直行。あんなに早く green zone もかまわず車で走ったのは後にも先にもあの時だけだと今も語り草になっています。高階博士は現場に残り有村は怪我人を West

Jefferson Hospital へ連れて行って手当にあたりました。その時、若い船医が河に飛び込んだまま行方不明になりました。お気の毒なことでした。喜美子さんの話では、当時、日本人の旅行者が外国にありながら自国と同じ我が物顔の振る舞いをして人に迷惑をかけ様々な問題を引き起こす事件が少なくありませんでした。留置所に入れられたり、病気になったり何か問題を起こすとすぐ領事館へ連絡があり、その都度彼女が助けに出かけた由 領事館は度々迷惑を被り、注意書きを作成して旅行者に配布したそうです。

やがて三菱、日本海事協会、全農など日本企業の進出により、当市の日本人の数が次第に増えていきました。大学でも日本からの留学生を時折見かけるようになり LSU 医学部にも日本から研究者がきていました。お正月には総領事館が新年宴会を開き日本人とその家族を招いてくださいましたので、私達は正装で出席し、日本の珍味を賞味させていただいたものです。その頃 New Orleans に Japan Society があることを聞きました。当地の Japan Society は米国第2に古い歴史ある会で 私たち若僧の日本人には敷居の高い存在でした。折から、日本から裏千家若宗匠ご夫妻がヨーロッパ訪問の帰途、当市に立ち寄られました。領事館は家元による茶道の demonstration を主催し当地の日本人や Japan Society の会員を招いて下さいました。そして私は領事のご依頼で通訳を勤めました。これを機会に Japan Society の会員にも知己を得、やがて入会しました。会員は殆どがアメリカ人でしたが、数名の日本人会員がいて、なかでも江成（はじめ）氏は雑用一切を引き受けて会のために 献身的に尽くしておられ、そのお姿が印象的でした。代は変わって1960年、大木総領事の後任として松尾総領事が就任され、公邸も Metairie Cemetery の近くへ移転しました。松尾総領事が就任されてから、日本人の間でゴルフが始まりました。クラブの記録には松尾総領事、平林夫妻、ジェトロの佐藤氏、医師の大島先生と藤本先生など少数の仲間が第3土曜日にゴルフを楽しんでいたとあります。1961年私達は4年間の米国滞在を終えて帰国しました。

4年後有村は Tulane-VA Hospital 共同の新しく出来た研究室にベイラー大学から着任した主任 Schally 博士（1977年医学生理学ノーベル賞受賞者）に要請され、私達が1965年再び New Orleans へ舞い戻った時は、帰国前と同じ松尾総領事で公邸も Metairie Cemetery の近くでした。しかし4年の間に日本人の数はかなり増え、総領事館の催しでは玉井さん平林さん川崎さんなど懐かしい方々に加え多くの新しい顔に出会いました。幸いなことに私は、生け花を通して帰国前から親しくなった日米多くの人々と交わる機会がありました。私の家の教室は平林夫人、江原夫人、玉井夫人、富子ストールさんなどを初め多くの方々に華やぎました。ちょうど学齢期となった子供たちが日毎に日本語を忘れていくので、私は親として、日本人として、子供に母国語を教え身につけさせておきたいとの思いしきりでした。幸い、時の領事長南さんにも私達とほぼ同年の二人のお子様がいました。私は長南領事奥様に私の思いを話し、お互いに教え合うのは如何でしょうかとご相談しました。奥様はすぐ私の考えに賛成で、二人は早速夏休みの間お互いの家を交代で教室として日本語の学習をはじめました。親が自分の子供を教えることは容易ではありません。子供の喜ぶ水泳や好きな食べ物をご褒美として何とか学習を続けました。そのうちに私は、このような問題で悩む日本人家族は他にもいることに気づきました。この際当地に日本人学校を設けるのはどうだろうかと長南領事に話しました。領事もこれに賛成して、すぐ外務省と文部省へ連絡して下さいました。図らずもその頃、海外子女教育振興財団が全世界に日本語学校設立運動を始めていました。その動きに乗って、その年のうちに日本語学校設立が許可され、総領事館で初の顔合わせをしました。1971年のことでした。そこには13人の可愛い日本人の子供たちが集まっていました。教室は生け花で使わせて頂いていた City Park Fountain の二階、先生は取り敢えず適任者が見つかるまで言い出しっぺの私ということで、それから1979年までの8年間 Tulane で働き始めるまで教鞭をとりました。

生け花とは別に女性の間では『すみれ会』が誕生し、女性だけの集まりでお料理その他を楽しんでいました。1971年、その後も、ゴルフ仲間は相変わらず総領事を中心に毎週ゴルフのあとは会食と楽しい活動が続きました。1964年、当時丸紅の加藤幹夫氏の発案でこのグループは **Crescent Golf Club** と命名されました。

Japan Club 発足の10年前のことです。松尾、奥田、両総領事に続いた橋田総領事は、病のため任期中にご帰国となり、変わって赴任した有野総領事は、ゴルフへの関心が全くなく参加されないの、今まで総領事を会長としていた **Golf Club** にとって会長が要ると言い出した滝沢氏（現在 **Hawaii** 在住）が第一代の会長を務めることになりました。

このように日本人が増えて、様々な活動を別個にしているよりは、このあたりで日本人会として日本人の為の纏まった会を作ったらどうか。そのような会があれば日本人同士がもっと親しく交わり、お互いの助け合いも出来るのではないかという話が持ち上がって来ました。熱心な推進者の一人は玉井氏でした。1974年の事です。当時、**City Park** 横 **Bayou St. John** 近くへ移転した有野総領事公邸で初会合が開かれました。集まったのはこの町に長く住んで来た主な日本人の面々、平林、玉井、谷津、江原、川崎、有村に今原老人は **Baton Rouge** から参加しました。会創立は一同の望むところ、全員一致でこの案は可決し、**New Orleans** 日本人会設立は決まりました。先ず会長を決めなくてはなりません。『会長には **Mr. New Orleans** と言われている平林氏が最適です。』と柔道の林先生が平林氏を推挙。平林氏は「どんな会でも初代会長は大切な方です。ついては私などよりは長老の今原氏を推薦します。今原氏はバトンルージュに住んでおられるので知らない人も多いと思いますが、誰より長老で日米両国の言葉も出来るから最適と思います。」と今原氏を推薦、**Baton Rouge** 在住の今原氏には会への出席は難しいからといえば、『今原氏が初代会長として本年末まで半年でも会長を務めて下されば、次は私が会長を勤めます。』と平林氏は言われます。その結果、初代会長は今原氏と決定し、平林氏が副会長を務めることになりました。平林氏が会長になった時、玉井氏が副会長を務め、

今原氏は名誉会長となりました。其の後、会長は順送りに玉井氏、谷津氏、江原氏と続けました。このような会を結成するには先ず規約を作る事が必要です。そこで主人有村は規約係となり、米国内各地の日本人会規約を取り寄せ、それを参考にして当会の規約を作成し、**Computer** のない頃なので、私が手書きをしたことを覚えています。有野氏に続いて就任したのが加藤総領事です。加藤氏ご夫妻は会の設立を積極的に支援され、特に日本画家でもあった奥様はご自分の絵をすべて競売にして3,000ドルを売り上げ、その全額を会の資金にと寄付して下さいました。この寄付金は会の貴重な基金となりました。会員一同はこのような加藤総領事ご夫妻を今なお日本人会設立の恩人として心から感謝し敬愛しています。

このようにして1975年、**New Orleans** の日本人会は目出度く誕生し、発足会には200人近い会員が出席しました。1975年5月発行されたニューズレター第一号によると、第一回 **General Meeting** は5月20日午後8時から場所は **Lake Vista Community Center**、6521-24 **Spanish Fort Blvd. (Lake Front)** で開かれました。

『長い間、計画準備中の **New Orleans Japan Club** も、今回正式に発足し、第一回の **News Letter** をお届けできるまでになりました。関係者、皆様の協力及び新しい家族を含めて約200名の会員の皆様の応援を感謝申し上げますと共に、当クラブの繁栄のために引き続きご援助下さい。』とあります。これに続き、総領事館便りには細本副領事の転勤、後任磯田氏の紹介、『旧琉球米民政府発給の身分証明書から日本旅券への切り替えについて』のお知らせ、会員ニュースでは会員の結婚、入会、寄付、入院など会員個人の出来事を知らせています。英文は手打ちのタイプ、和文は手書きです。当初の活動状況は映画会、ピクニック、スポーツでは **Tulane** 大学のプールを借り切ったの水泳パーティー、ゴルフ、釣りなど、そして同年6月にはテニスクラブが誕生します。女性グループは、総領事公邸に集まったの会合、また24日間の日本旅行、また、**Japan Society**、**Tulane** 大学と合同で **Jazz Concert** の後援をしたりして活発で意欲的に活動しています。また、米国内での日本企業ニュースや為替の値動

き、日本各地の気温天候の様子までも報告されています。今のように衛星放送のない頃、これらの記事は会員に取って貴重なニュースだったと思います。

平林丈二、有村勝子

The English translation of this article will be published in July Newsletter. Editor

To Consul General Masaru Sakato

Paul Muehlemann and I had a wonderful time on this visit and wanted to share some of the photos with you!

The Japan Club trip that Patty and I participated in was interesting, but long. Zen-Noh sent a big, modern 55-passenger motor coach to pick up a group of Japanese Tulane Students before picking up the rest of us at Clearview Shopping Center at about 1:45 P.M. The bus had numerous video screens, and they showed us two Zen-Noh videos while we were traveling to their plant. It then took us to Convent, LA to tour their grain elevators and grain handling facilities en route. Their grain elevator in Convent is the largest one in the world and is there to ensure an adequate supply of corn and soybeans (and a little wheat) to Japan. The tour at the grain elevator involved a lot of walking (not so good for me or Patty), but it was interesting. After the tour the bus took us to Houmas House Plantation. It is beautifully maintained. There Zen-Noh treated us a leisurely walk around the park-like grounds and later on to an open bar, appetizers and then dinner on the porch crawfish etouffée, pork roast, beef roast, sandwiches, etc. They even had a crawfish, corn and pumpkin bisque in a kettle over a fireplace. Everything was good. Zen-Noh even provided a little Cajun-Country band with a Japanese drummer girl for entertainment after dinner. Our bus did not leave Houmas House until after 7:30 P.M., so it was a long day.

Patty Habeeb Muehlemann, Vice President of Japan Society

総領事 坂戸勝 様

ポール ムウルマン（写真家）と私はこの見学で、実に素晴らしいときを過ごさせていただき

ましたので、現場で撮りました写真をお見せしたいと存じます。

全農は55人乗りのバスを配してくれ、先ず Tulane で日本語を勉強している学生達を乗せ、Clear view Shopping Center で日本人会の会員達を乗せてくれました。バスの中には席ごとにビデオを見ることが出来ます。副会長の落合さんが、全農の機能を二本のビデオで紹介してくれました。全農の穀物のエレベーターは、世界最大なものだそうです。此処には玉蜀黍、大豆と麦を日本に出荷するに十分な量が常時確保されています。エレベーターの見学は長い歩行が必要ですが、大変興味深く見せてもらいました。見学が終わってから、バスで、**Houmas House Plantation** に連れて行ってもらいました。庭園は実に美しく手入れがしてありました。ゆっくり庭園を見て歩き Houmas House に着くとオープンバーがありました。数種類のアピタイザーが運ばれてきました。午餐はポーチに食卓が沢山並んでいました。Crawfish toffee, 豚と牛のローストと色々なサンドイッチなどでした。ファイヤープレスの上のケトルには crawfish や玉蜀黍やパンプキンのビスケットなどもありました。何もかも大変美味しかったです。其の上全農では日本の女性の率いるケイジャンバンドで食後の宴に興してくれました。バスは7:30 過ぎに Houmas House を出ましたから大変長い有意義な一日でした。（菅井訳）

家族ずれで、子供さん達も多く参加しましたが、長い一日にも関わらず、大変おとなしく大人たちの間に挟まれ、見学に参加できたことは大層良かったと思います。ご両親のご努力のほどお察し申し上げます。終わりにになりましたが副会長落合さんの孤軍奮闘振りを拝見し、日本人会全会員達みな深く感謝いたしております。

編集部より

川柳

川崎 さと

生き生きと 働きし 夫 今いずこ
病みし夫 心いかにと 思いけり
病床の夫の 寝姿 信じ 難し
ひたすらに 夫の 快復 祈るのみ

Manufacturing Diamonds

Diamonds hold a mythical position in people's minds. They are the hardest substance known; so hard that they can cut glass. Natural diamonds, pure carbon, are formed deep in the earth's crust where carbon is subjected to high temperature and pressure. It was long held that man could not duplicate these conditions.

Yes! Diamonds can be manufactured and have been for over 50 years. It was known that naturally occurring diamonds were formed at high temperatures and pressures and during the 1950's a process was discovered to make synthetic diamonds. By subjecting graphite, a form of carbon used in the common lead pencil, to a pressure of 55,000 atmospheres in molten iron at a temperature of 2550 degrees F synthetic diamonds are formed. The only trouble here is the size; they were no larger than diamond dust. Even this dust has a place in Industry as an abrasive for cutting very hard substances and for sharpening stones used to sharpen carbide tipped shop tools

Quite recently a process has been developed to take this diamond dust and turn it into diamonds of a much larger size. Large enough and good enough to be used as gem quality diamonds. But more important this process will allow diamonds to be used for many other purposes.

Everyone is familiar with growing crystals from a solution using a seed crystal. This is the method used to make rock candy, which are only large crystals of pure sugar. Rock Candy can be made by anyone by coating a moist string with ordinary table sugar and then letting the string stand in concentrated sugar solution. Over several days the small crystals of table sugar will grow by the deposition of molecules of sugar from the solution onto the tiny crystals. How big they grow will depend in the patience of the person.

Diamonds are crystals of pure carbon and can be grown by the deposition of carbon onto the tiny seed crystals. But, rather than using a water solution as a source, a different technique is used. Methane (CH_4), the main component of natural gas used in our homes, is heated to a temperature high

enough to decompose the methane to carbon and hydrogen known as plasma. If high pressure is used the carbon from the methane will deposit onto the tiny crystals which can be grown to the size desired. These man-made diamonds are called synthetic diamonds and in all aspects are the same as naturally occurring diamond

This new technology will make diamonds more readily available to Industry to make use of their unique properties of clarity, heat resistant, stiffness, hardness and transparency. Due to their heat resistance they can be used in the electronics to dissipate heat and as transistors in heat sensitive spots. Their stiffness and hardness make them attractive as components of woofers and tweeters in the audio industry. These two properties could be utilized to make scalpels and blades for precision cutting. Their clarity and heat resistance makes them attractive for focusing lasers. Their hardness and clarity could be utilized as windows for spaceships to withstand the bombardment of micro meteors.

J. T. Barker, Ph. D.

ダイヤモンドの製造

ダイヤモンドは我々の心に神秘性を持っています。それは最も硬い質を持ち其の為ガラスを切ることが出来ます。自然のダイヤモンドは純粋な炭素で、カーボンが最も高い熱と圧力にさらされる地中の奥深くで作られます。長い間人間は之と同じ状況を再現する事は出来ませんでした。

然し、五十年以上に亘って其のダイヤモンドを製造してきました。自然に出来たダイヤモンドは高熱と圧力によって創られることは解っていました。そして 1950 年に synthetic ダイヤモンドを造る方法と行程を発見しました。鉛筆の芯の中に入っているカーボン（炭素）の結晶体に 2550 度 F の温度と 55,000 の熔解鉄ガス体大気の圧力を掛けるとダイヤモンドが出来ます。此処で問題なのは其の大きさです；それらはダイヤモンドの埃の域を脱していません。此処で問題なのは其の大きさです；たとえ粉末でも硬いものを切ったり、研磨剤カーバイド（炭化物）突端に突け工場の道具を磨くのに使う磨き石として利用できます。

最近このダイヤモンド粉を使ってもっと大きいものを造る方法が開発されました。大きさも質も宝石として使えるものも出来るようになりました。しかし、もっと大事なことはこの方法を使ってダイヤモンドがもっと色々な分野で利用できるようになったことです。

結晶体の種を使って溶液から結晶体を作ることは皆さん良くご存知でしょう。それは岩飴を作るのに使用した方法と同じです。普通の砂糖の溶けた中に湿った太い糸を垂らして置きます。数日後には砂糖の分子が沈殿して積もり小さな砂糖の結晶が出来ます。どんなに大きくなるか作る人の辛抱強さによります。

ダイヤモンドは炭素の結晶で、小さな結晶の種の上に純粋な炭素を沈殿させて大きくさせます。しかし、水を使って溶解するのではなく、違った技術を使います。メタン (CH_4) 家庭で使われる自然ガス構成要素の主な成分を熱し温度を分解、メタンをカーボンとプラズマとして知らされている水素とに分解出来得るほどの高い温度に熱します。

もし高度な圧力を掛けるとメタンから作られるカーボンが小さな結晶の上に沈積しますから好み大きさに出来ます。このように人間の製造したダイヤモンドを合成ダイヤモンドと称しますが、あらゆる面で自然に出来たダイヤモンドと全く同じです。

この新しい技術はダイヤモンドの性質である透明、熱に対する抵抗力、硬直性、堅さ、等の素質を工業用に使えるようにしてくれました。熱に対する抵抗力の強さから熱に敏感な箇所などにトランジエスターとして熱を消散させる為に使えます。その硬直性と堅さは自動車産業に Woofers, tweeters として音響装置に極めて魅力的です。これら二つの特性は外科用のメスと精密度の高い刃物を造る為に利用されます。その堅さと透明性は宇宙船の窓に使用すれば流星体の衝撃にも抵抗することが出来ます。菅井 記

短歌

菅井

新緑の たわわ な 柿ノ木 幾百と
目立たぬ 花を 守り 続ける
葡萄棚 直してくれる 夫の背に
ひらりと休む 黄色い ちょう ちょう

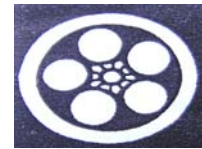
Advertisements



JAPANESE RESTAURANT
8433 Oak St.
N.O., LA 70118
504-866-1119

NINJA

NIN JA
Monday: Closed
Tue-Fri 11:30-2:30 Tue-Thu 5-10
Fri-Sat : 5-10:30 Dinner
Sat-Sun 12-3 Lunch
Sunday: 5-10 Dinner



Holinoya Restaurant & Sushi Bar
920 Poydras Street, New Orleans
Mon-Fri Lunch 11:30am-2:30pm
Mon-Sat Dinner 5:00pm-9:30pm
(To 10pm for Fri and Sat)
Closed on Sunday

SUBWAY
eat fresh.

Noni & Raj Pannu
Pannu Enterprises, Inc.
(504) 417-3282

Kyoto Restaurant

4920 Prytania Street, New Orleans
Ph 504 -891-3644
Mon-Fri Lunch 11:30am-2:30pm
Mon-Sat Dinner 5:00pm-10pm
(to 10:30pm for Fri and Sat)
Closed on Sunday



Japan Club Tour Group at Zen-Noh Grain Corporation March 24, 2007

Taken by Jose Huerta

手芸パーティが四月二十八日土曜日に暉子さんのお宅であります。時間：12:00 – 5:00

お昼食を皆で頂きたいと思いますから何か一品お持ちください。 菅井

We will have the Craft Party at Mrs. Teruko Von Barga's residence. This is a pot luck lunch. Please Bring one item. Time 12:00 to 5:00 p.m. Sugai

Please send your article to: Jack & Sugai Barker 165 W. Forest Dr., Slidell, LA 70458-1123

Tel: 985-649-2781 E-mail: s2u5gai@peoplepc.com

**Japan Club of New Orleans
P.O. Box 8501
Metairie, LA 70011**

